

第 5 0 5 回川越市農業委員会総会議事録  
(公 開 用)

川 越 市 農 業 委 員 会

## 第 5 0 5 回 川 越 市 農 業 委 員 会 総 会 議 事 録

- 1 開催年月日            令和7年12月23日
- 2 開催場所            川越市環境プラザ（研修室）
- 3 開会時刻            午前     9時20分
- 4 閉会時刻            午前   10時40分
- 5 招集者氏名           農業委員会会長        渋谷 武
- 6 議長の氏名           農業委員会会長        渋谷 武
- 7 委員出席者数        16名

内				訳			
議席	氏 名	出欠	備 考	議席	氏 名	出欠	備 考
1	大野 美智明	出		10	高橋 正利	出	
2	高橋 庄一郎	出		11	皆川 善平	出	
3	小和瀬 康男	出		12	小嶋 光一	欠	
4	小倉 晶男	出		13	武藤 康則	出	
5	今野 英子	出		14	新井 計男	出	
6	永島 千恵子	出		15	大野 豊作	出	
7	田畑 たき子	出		16	渋谷 武	出	
8	鈴木 初夫	出		17	永堀 知己	出	
9	時田 重雄	出					

### 8 議事参与者

職	氏 名	職	氏 名
農地利用最適化推進委員	皆川 雅昭	農地利用最適化推進委員	程島 延幸
農地利用最適化推進委員	鈴木 政明	農地利用最適化推進委員	村山 芳則
農地利用最適化推進委員	中澤 勝芳	農地利用最適化推進委員	黒田 経夫

職	氏 名	職	氏 名
農地利用最適化推進委員	佐藤 金誉	農地利用最適化推進委員	利根川 孝一
農地利用最適化推進委員	須賀 宏	農地利用最適化推進委員	荻野 勝美
農地利用最適化推進委員	杉浦 朗	農地利用最適化推進委員	渡邊 昭男
農地利用最適化推進委員	野口 和則	農地利用最適化推進委員	發知 孝雄
農地利用最適化推進委員	島村 茂勝	農地利用最適化推進委員	米田 正則

## 9 事 務 局

職	氏 名	職	氏 名
事務局長	高梨 直人	主 査	森井 孝信
主 幹	宮本 晃宏	主 事	堀口 優衣
副 主 幹	山崎 明美		
副 主 幹	長谷川 修		
副 主 幹	鈴木 信幸		

## 10 開 会

会長 渋谷 武 は議長席に着き、出席委員が定足数に達していることを確認した後、令和7年12月23日 第505回川越市農業委員会総会の開会を宣言する。

### 11 議事録署名委員選任の件

議長 渋谷 武 は、本件に対し、議長の指名により推薦したい旨を諮ったところ、全員の賛同を得たため、次の者を指名選任する。

委員 時田 重雄

委員 高橋 正利

委員 皆川 善平

1 2 議決事項及び議事の要領

報告第 1 号

総会の所管に関する報告書について

議長は、別添報告について、事務局に説明を求めた。

事務局は「所管に関する報告書 1 1 月分について報告する。

農地法第 4 条第 1 項第 7 号の規定による農地転用届出書につ

いては、合計 3 件、4 筆、6 2 3 m<sup>2</sup>である。農地法第 5 条第

1 項第 6 号の規定による農地転用届出書については、合計 9

件、1 7 筆、8 , 2 2 0 . 1 2 m<sup>2</sup>である。農地改良届について

は、合計 6 件、1 1 筆、4 , 4 9 0 m<sup>2</sup>である。相続税の納税猶

予に関する適格者証明書については、合計 1 件、1 筆、1 ,

1 7 0 m<sup>2</sup>である。相続税の納税猶予に関する 3 年ごとの農業

継続証明書については、合計 8 件、5 2 筆、4 1 , 7 9 8 m<sup>2</sup>

である。農地法第 3 条の 3 の規定による届出書については、

合計 1 8 件、1 1 7 筆、8 5 , 6 2 2 . 6 3 m<sup>2</sup>である。詳細に

ついては報告書のとおりである。」との説明を行なった。

議長は、委員に意見を求めた。

議長は、意見がなかったため、議事を進めた。

議案第 1 号

農地中間管理事業の推進に関する法律第 1 9 条

第 3 項の規定による農用地利用集積等促進計画

(案) に対する意見について

議長は、別添議案を上程し、事務局に説明を求めた。

事務局は「今月の第 1 号議案は、件数 5 1 件、筆数 4 9 7 筆、面積 6 0 2 , 3 4 9 m<sup>2</sup>についての意見照会があった。

整理番号 1 番は、年齢 7 3 歳、農業従事日数 1 5 0 日、世帯内の農業従事者は 2 人、経営面積は申出地周辺を含む約 2 0 アールである。

整理番号 2 番は、年齢 6 9 歳、農業従事日数 1 5 0 日、世帯内の農業従事者は 2 人、経営面積は申出地周辺を含む約 1 5 1 アールである。

整理番号 3 番は、年齢 7 5 歳、農業従事日数 2 8 0 日、世帯内の農業従事者は 3 人、経営面積は申出地周辺を含む約 6 1 3 アールである。

整理番号 4 番は、年齢 6 4 歳、農業従事日数 1 5 0 日、世帯内の農業従事者は 1 人、経営面積は申出地周辺を含む約 8 0 アールである。

整理番号 5 番は、年齢 7 8 歳、農業従事日数 3 0 0 日、世帯内の農業従事者は 2 人、経営面積は申出地周辺を含む約 9 6 アールである。

整理番号 6 番は、年齢 6 1 歳、農業従事日数 3 0 0 日、世帯内の農業従事者は 2 人、経営面積は申出地周辺を含む約 2 2 6 アールである。

整理番号 7 番は、年齢 7 6 歳、農業従事日数 2 0 0 日、世帯内の農業従事者は 2 人、経営面積は申出地周辺を含む約 6 0 アールである。

整理番号 8 番は、年齢 7 1 歳、農業従事日数 1 5 0 日、世

帯内の農業従事者は２人、経営面積は申出地周辺を含む約 9  
2 アールである。

整理番号 9 番は、代表取締役の農業従事日数 1 5 0 日以上、  
農業従事者は 1 0 人、経営面積は申出地周辺を含む約 8 4 6  
アールである。

整理番号 1 0 番は、代表取締役の農業従事日数 3 0 0 日、  
農業従事者は 4 人、経営面積は申出地周辺を含む約 1 , 3 5  
6 アールである。

整理番号 1 1 番は、年齢 7 8 歳、農業従事日数 1 8 0 日、  
世帯内の農業従事者は 4 人、経営面積は申出地周辺を含む約  
1 4 8 アールである。

整理番号 1 2 番は、年齢 7 9 歳、農業従事日数 2 8 0 日、  
世帯内の農業従事者は 1 人、経営面積は申出地周辺を含む約  
1 4 アールである。

整理番号 1 3 番は、年齢 7 7 歳、農業従事日数 3 0 0 日、  
世帯内の農業従事者は 3 人、経営面積は申出地周辺を含む約  
2 0 0 アールである。

整理番号 1 4 番は、年齢 4 3 歳、農業従事日数 3 0 0 日、  
世帯内の農業従事者は 1 人、経営面積は申出地周辺を含む約  
8 9 アールである。

整理番号 1 5 番は、年齢 4 8 歳、農業従事日数 1 5 0 日、  
世帯内の農業従事者は 1 人、経営面積は申出地周辺を含む約  
4 0 アールである。

整理番号 1 6 番は、年齢 5 8 歳、農業従事日数 1 8 0 日、

世帯内の農業従事者は１人、経営面積は申出地周辺を含む約 ６６アールである。
整理番号１７番は、年齢６５歳、農業従事日数３００日、 世帯内の農業従事者は２人、経営面積は申出地周辺を含む約 ２，０２３アールである。
整理番号１８番は、年齢６９歳、農業従事日数２５０日、 世帯内の農業従事者は１人、経営面積は申出地周辺を含む約 ８３アールである。
整理番号１９番は、年齢７５歳、農業従事日数１５０日、 世帯内の農業従事者は２人、経営面積は申出地周辺を含む約 ４０アールである。
整理番号２０番は、年齢７４歳、農業従事日数３００日、 世帯内の農業従事者は２人、経営面積は申出地周辺を含む約 １６３アールである。
整理番号２１番は、年齢５５歳、農業従事日数３００日、 世帯内の農業従事者は１人、経営面積は申出地周辺を含む約 ３９７アールである。
整理番号２２番は、年齢７１歳、農業従事日数２００日、 世帯内の農業従事者は２人、経営面積は申出地周辺を含む約 １４９アールである。
整理番号２３番は、年齢４１歳、農業従事日数３００日、 世帯内の農業従事者は４人、経営面積は申出地周辺を含む約 ５３７アールである。
整理番号２４番は、年齢７７歳、農業従事日数１５０日、

世帯内の農業従事者は１人、経営面積は申出地周辺を含む約 １１３アールである。
整理番号２５番は、年齢７９歳、農業従事日数１５０日、 世帯内の農業従事者は２人、経営面積は申出地周辺を含む約 ２７アールである。
整理番号２６番は、年齢７９歳、農業従事日数１５０日、 世帯内の農業従事者は３人、経営面積は申出地周辺を含む約 ２６アールである。
整理番号２７番は、年齢９２歳、農業従事日数１５０日、 世帯内の農業従事者は１人、経営面積は申出地周辺を含む約 ３３アールである。
整理番号２８番は、年齢７３歳、農業従事日数２００日、 世帯内の農業従事者は２人、経営面積は申出地周辺を含む約 １１７アールである。
整理番号２９番は、年齢８３歳、農業従事日数１５０日、 世帯内の農業従事者は２人、経営面積は申出地周辺を含む約 ５４アールである。
整理番号３０番は、年齢８７歳、農業従事日数１５０日、 世帯内の農業従事者は３人、経営面積は申出地周辺を含む約 １７６アールである。
整理番号３１番は、年齢７６歳、農業従事日数２５０日、 世帯内の農業従事者は２人、経営面積は申出地周辺を含む約 １７４アールである。
整理番号３２番は、年齢７９歳、農業従事日数１５０日、



世帯内の農業従事者は１人、経営面積は申出地周辺を含む約 ３７アールである。
整理番号３３番は、年齢４７歳、農業従事日数１５０日、 世帯内の農業従事者は４人、経営面積は申出地周辺を含む約 ７４アールである。
整理番号３４番は、年齢５５歳、農業従事日数１５０日、 世帯内の農業従事者は２人、経営面積は申出地周辺を含む約 ２１アールである。
整理番号３５番は、年齢１０１歳、農業従事日数１５０日、 世帯内の農業従事者は２人、経営面積は申出地周辺を含む約 １５６アールである。
整理番号３６番は、年齢７９歳、農業従事日数１５０日、 世帯内の農業従事者は３人、経営面積は申出地周辺を含む約 １８アールである。
整理番号３７番は、年齢７８歳、農業従事日数１５０日、 世帯内の農業従事者は１人、経営面積は申出地周辺を含む約 ２３アールである。
整理番号３８番は、年齢６３歳、農業従事日数１５０日、 世帯内の農業従事者は３人、経営面積は申出地周辺を含む約 ４０アールである。
整理番号３９番は、年齢４９歳、農業従事日数２５０日、 世帯内の農業従事者は４人、経営面積は申出地周辺を含む約 ５２アールである。
整理番号４０番は、年齢７５歳、農業従事日数２５０日、

世帯内の農業従事者は１人、経営面積は申出地周辺を含む約  
３７９アールである。

整理番号４１番は、年齢５４歳、農業従事日数１６０日、  
世帯内の農業従事者は２人、経営面積は申出地周辺を含む約  
７２アールである。

整理番号４２番は、年齢４６歳、農業従事日数１５０日、  
世帯内の農業従事者は２人、経営面積は申出地周辺を含む約  
３３７アールである。

整理番号４３番は、年齢６１歳、農業従事日数３００日、  
世帯内の農業従事者は３人、経営面積は申出地周辺を含む約  
１１８アールである。

整理番号４４番は、年齢６０歳、農業従事日数１５０日、  
世帯内の農業従事者は１人、経営面積は申出地周辺を含む約  
１３アールである。

整理番号４５番は、年齢７２歳、農業従事日数１５０日、  
世帯内の農業従事者は１人、経営面積は申出地周辺を含む約  
１８８アールである。

整理番号４６番は、年齢６８歳、農業従事日数１８０日、  
世帯内の農業従事者は１人、経営面積は申出地周辺を含む約  
６７アールである。

整理番号４７番は、年齢６５歳、農業従事日数１８０日、  
世帯内の農業従事者は１人、経営面積は申出地周辺を含む約  
４３アールである。

整理番号４８番は、年齢７３歳、農業従事日数３１０日、

世帯内の農業従事者は２人、経営面積は申出地周辺を含む約  
１８９アールである。

整理番号４９番は、年齢３６歳、農業従事日数１５０日、  
世帯内の農業従事者は１人、経営面積は申出地周辺を含む約  
９６アールである。

整理番号５０番は、従業員が１７人の法人である。必要な  
機械を備え、現在は群馬県藤岡市に２，６１７㎡、さいたま  
市に５４，８６４㎡の農地を、中間管理機構を介し賃借し、  
コーヒー等の栽培を行なっている。本市においては、協力会  
社の助言を受けながら、原木キノコの栽培を計画している。

整理番号５１番は、前身の株式会社が令和７年５月２９日  
に商号変更した法人である。農業従事者は１２人、経営面積  
は申出地周辺を含む約１３２アールである。

以上のことから、整理番号１番から５１番の農地中間管理  
機構から賃借権又は使用貸借権の設定等を受ける者（受け  
手）については、農地中間管理事業の推進に関する法律第  
１８条第５項の要件をみたしており、農用地利用集積等促  
進計画案は問題ないと考えられる。」との説明を行なった。

議長は、委員に意見を求めた。

委員から「整理番号５０番について、調査報告する。８月  
２０日に、福原地区の全委員と埼玉県農林公社、川越農林振  
興センター、農政課、事務局の職員が参加して借受人から営  
農計画などの話を伺った。借受人は、グループ会社が農業事  
業を行うために設立した法人である。グループ会社の主な事

業はエネルギー、電力関係だが、SDGs対応ニーズや農業振興、地域活性化に貢献するために農業参入し、昨年からは群馬県藤岡市でコーヒー豆を生産している。また、今年の5月には、さいたま市で約5.5ヘクタールの農地を農地中間機構から借り受けている。川越市では、原木きのこを生産する計画である。山梨県にある株式会社から原木きのこの栽培技術の提供を受けながら営農していくとのことである。また、畑の上の空間には営農型の太陽光発電のパネルを設置する計画で、農業と発電事業をグループ内で完結できるとのことである。なお、借り受ける農地の約9割は遊休農地だが、解消するために、埼玉県が行なっている大規模農業法人等の誘致活動推進事業を利用する予定とのことである。以上のことから、地元農業委員としては、本申請は問題ない考える。皆さんの慎重な審議をお願いします。」との発言があった。

議長は、ほかに委員に意見を求めた。

委員から「整理番号50番について、意見を申し上げる。

8月20日に、福原地区の全委員と埼玉県農林公社、川越農林振興センター、農政課、事務局の職員が参加して借受人から営農計画などのお話を伺った。内容としては、先ほどの農業委員の調査報告のとおりである。地元の農地利用最適化推進委員としては、本申請は問題ない考える。皆さんの慎重な審議をお願いします。」との発言があった。

議長は、ほかに委員に意見を求めた。

委員から、「整理番号27番、35番については、実際には

世帯内の若い方が耕作を行っていると思うが、(申請人は高齢のため申請者名は、) 実際に主として耕作を行っている方の名前にならないのか」との発言があった。

事務局は「実際には世帯内に若い方がおり、その方が耕作の担い手となっていることを確認しているが、申請上は農地台帳登載の主たる従事者になるため、ご理解いただきたい。」旨の説明を行った。

議長は、ほかに意見がなかったため、農地中間管理事業の推進に関する法律第19条第3項の規定による農用地利用集積等促進計画(案)については、農地中間管理事業の推進に関する法律第18条第5項の要件をみたしているため、市長へ「意見なし」とすることで採決に入る旨を告げ、賛成の者の挙手を求めた。

議長は、全員の賛成が得られたため、議案第1号について原案どおり決定する。

#### 議案第2号

農地法第3条第1項の規定による許可について

議長は、別添議案を上程し、事務局に説明を求めた。

事務局は「今月の第2号議案は、件数6件、筆数10筆、面積9,300㎡についての申請があった。

整理番号1番については、経営拡張のための所有権移転で、1筆、915㎡の申請である。譲受人は、現在53歳で、農業従事日数は年間200日以上、約106アールの農地を耕

作する農家である。申請地を譲り受け、経営の拡張をはかりたいとの理由により申請されたものである。通作距離は約 1 k m である。

整理番号 2 番については、経営拡張のための所有権移転で、3 筆、2, 566 m<sup>2</sup>の申請である。譲受人は、現在 52 歳で、農業従事日数は世帯合計で年間 300 日以上、約 47 アールの農地を耕作する農家である。申請地を譲り受け、経営の拡張をはかりたいとの理由により申請されたものである。通作距離は約 500 m である。

整理番号 3 番については、経営拡張のための所有権移転で、1 筆、386 m<sup>2</sup>の申請である。譲受人は、現在 56 歳で、農業従事日数は年間 250 日以上、約 278 アールの農地を耕作する農家である。申請地を譲り受け、経営の拡張をはかりたいとの理由により申請されたものである。通作距離は約 1000 m である。

整理番号 4 番については、経営拡張のための所有権移転で、1 筆、3, 270 m<sup>2</sup>の申請である。譲受人は、前身の株式会社が令和 7 年 5 月 29 日に商号変更した法人である。現在は約 132 アールの農地を耕作している。今回は、農地所有適格法人として申請地を売買で取得し、経営の拡張をはかりたいとの理由により申請されたものである。通作距離は約 500 m である。

整理番号 5 番については、経営拡張のための所有権移転で、3 筆、1, 889 m<sup>2</sup>の申請である。譲受人は、現在 36 歳で、

農業従事日数は年間１５０日以上、約９６アールの農地を耕作する農家である。申請地を譲り受け、経営の拡張をはかりたいとの理由により申請されたものである。通作距離は約５００ｍである。

整理番号６番については、経営拡張のための所有権移転で、１筆、２７４㎡の申請である。譲受人は、現在６０歳で、農業従事日数は世帯合計で年間１９０日以上、約１３０アールの農地を耕作する農家である。申請地を譲り受け、経営の拡張をはかりたいとの理由により申請されたものである。通作距離は約１ｋｍである。

以上のことから、整理番号１番から６番について許可できない場合が規定された、農地法第３条第２項各号に該当しないため、許可することによろしいか、お伺いする。」との説明を行なった。

議長は、委員に意見を求めた。

委員から「整理番号２番について、調査報告する。１２月１７日に、農地利用最適化推進委員と一緒に、譲受人から今回の農地取得の目的などの話を伺った。農地取得の目的は、経営拡張のためとのことである。譲受人は、現在５２歳で、農業従事日数は、世帯合計で年間３００日以上、約４７アールの農地を耕作している農家である。主な作付けは露地野菜で、申請地においては露地野菜を計画している。また、トラクター、管理機などを拝見させていただき、申請地を維持管理できる農機具を所有していることを確認した。以上のこと

から、地元農業委員としては、本申請は問題ない考える。

皆さんの慎重な審議をお願いします。」との発言があった。

議長は、ほかに意見を求めた。

委員から「整理番号2番について、意見を申し上げる。1

2月17日に、農業委員と一緒に、譲受人から農地取得の目的などの話を伺った。内容としては、先ほどの農業委員の調査報告のとおりである。地元の農地利用最適化推進委員としては、本申請は、問題ない考える。皆さんの慎重な審議をお願いします。」との発言があった。

議長は、ほかに意見を求めた。

委員から「整理番号5番について、調査報告する。12月

19日に、農地利用最適化推進委員と一緒に、譲受人から今回の農地取得の目的などの話を伺った。農地取得の目的は、経営拡張のためとのことである。譲受人は、現在36歳で、農業従事日数は、年間150日以上、約96アールの農地を耕作している農家である。主な作付けは水稻で、申請地においては水稻を中心に一部野菜を計画している。また、トラクター、コンバイン、田植機、乾燥機、籾摺り機などを拝見させていただき、申請地を維持管理できる農機具を所有していることを確認した。以上のことから、地元農業委員としては、本申請は問題ない考える。皆さんの慎重な審議をお願いします。」との発言があった。

議長は、ほかに意見を求めた。

委員から「整理番号5番について、意見を申し上げる。1



2月19日に、農業委員と一緒に、譲受人から農地取得の目的などの話を伺った。内容としては、先ほどの農業委員の調査報告のとおりである。地元の農地利用最適化推進委員としては、本申請は、問題ないを考える。皆さんの慎重な審議をお願いします。」との発言があった。

議長は、ほかに意見を求めた。

議長は、ほかに意見がなかったため、整理番号1番から6番については、許可できない場合が規定された農地法第3条第2項各号に該当しないため、許可することで採決に入る旨を告げ、賛成の者の挙手を求めた。

議長は、全員の賛成を得られたため、議案第2号について原案どおり許可することに決定する。

### 議案第3号

農地法第4条第1項の規定による許可申請書に  
対する意見について

議長は、別添議案を上程し、事務局に説明を求めた。

事務局は「今月の第3号議案は、件数1件、筆数1筆、面積399㎡についての申請があった。

整理番号1番については、農業用倉庫新築のため、1筆、399㎡の申請である。申請人は現在自宅敷地内に農業用倉庫を所有している。現在の倉庫が手狭になってきたことから、新たな農業用倉庫を必要としている。そこで、農業機械等の運搬に自宅から国道を横断することのない申請地が適地

と考え、農業用倉庫の建築を行うとの申請である。農地区分については、農用地区域内農地であると考えられるが、農業用施設であるため不許可の例外に該当すると考えられる。排水設備はない。雨水については、敷地内にて自然浸透させる計画である。

以上のことから、整理番号１番については、それぞれ立地基準と一般基準として許可できない場合が規定された農地法第４条第６項各号に該当しないため、総合意見として県へ許可相当であるとの意見を付すことよろしいか、お伺いする。」との説明を行なった。

議長は、委員に意見を求めた。

議長は、意見がなかったため、整理番号１番について農地転用に関する許可基準からみた意見については、農地法第４条第６項各号に該当しないため、総合意見として許可相当とすることで、採決に入る旨を告げ賛成の者の挙手を求めた。

議長は、全員の賛成が得られたため、議案第３号について総合意見として許可相当とすることに決定する。

#### 議案第４号

農地法第５条第１項の規定による許可申請書に  
対する意見について

議長は、別添議案を上程し、事務局に説明を求めた。

事務局は「今月の第４号議案は、件数１０件、筆数１６筆、面積７，２３１㎡についての申請があった。

整理番号1番については、駐車場に使用のための所有権移転で、1筆、1,167㎡の申請である。譲受人は、昭和62年4月に医療法人を設立し、診療所や介護事業所を営む法人である。現在、診療所と介護事業所で共同使用している駐車場が手狭になっており、新たに駐車場を必要としている。そこで、診療所や介護事業所に近い申請地が適地と考え、売買にて取得し、駐車場として使用したいとの申請である。農地区分については、第3種農地であると考えられる。雨水については、敷地内にて浸透トレンチを設置する計画である。

整理番号2番については、駐車場に使用のための賃借権設定で、3筆、212㎡の申請である。譲受人は平成17年4月に医療法人を設立し、病院及び診療所を営む法人である。現在、患者数の増加により医療従事者を採用するにあたって、新たに駐車場を必要としている。そこで、現在の駐車場に隣接する申請地を適地と考え、賃借にて借り受け、従事者の駐車場として使用したいとの申請である。農地区分については、第2種農地であると考えられる。雨水については、敷地内に自然浸透させる計画である。

整理番号3番については、住宅新築のための使用賃借権設定で、2筆、392㎡の申請である。譲受人は妻の実家にて暮らしている。現在の住まいが手狭になってきたことから、住宅の建築を計画した。そこで、実家に近い申請地が適地と考え、使用賃借にて借り受け、住宅建築を行うとの申請である。

る。農地区分については、第1種農地であると考えられるが、集落に接続した住宅建築であるため不許可の例外に該当すると考えられる。排水については、管理者の同意を得て、公共下水道へ放流する計画である。雨水については、敷地内に浸透枡を設置する計画である。

整理番号4番については、住宅新築のための所有権移転で、1筆、229㎡の申請である。譲受人は借家にて暮らしている。現在の住まいが手狭になってきたことから、住宅の建築を計画した。そこで、妻の実家に近い申請地が適地と考え、売買にて取得し、住宅建築を行うとの申請である。農地区分については、第2種農地であると考えられる。排水については、管理者の同意を得て、公共下水道へ放流する計画である。雨水については、敷地内に浸透枡を設置する計画である。

整理番号5番については、資材置場に使用のための所有権移転で、1筆、252㎡の申請である。譲受人は平成28年6月に株式会社を設立し、電気工事業を主な業務としている。現在は資材置場に従業員の車を置かなければならず、資材搬入と従業員車両の移動が重なることから業務に支障をきたしており、新たな資材置場を必要としている。そこで、既存の資材置場に隣接する申請地が適地と考え、売買にて取得し、資材置場として使用したいとの申請である。農地区分については、第2種農地であると考えられる。雨水については、敷地内にて自然浸透させる計画である。

整理番号 6 番については、住宅新築のための所有権移転で、2 筆、3 1 8 m<sup>2</sup>の申請である。譲受人は借家にて暮らしている。現在の住まいが手狭になってきたことから、住宅の建築を計画した。そこで、実家に近い申請地が適地と考え、売買にて取得し、住宅建築を行うとの申請である。農地区分については、第 1 種農地であると考えられるが、集落に接続した住宅建築であるため不許可の例外に該当すると考えられる。排水については、管理者の同意を得て、合併浄化槽から水路へ放流する計画である。雨水については、敷地内にて浸透枘を設置する計画である。

整理番号 7 番については、住宅新築のための所有権移転で、2 筆、4 1 3 m<sup>2</sup>の申請である。譲受人は借家にて暮らしている。現在の住まいが手狭になってきたことから、住宅の建築を計画した。そこで、勤務地に近い申請地が適地と考え、売買にて取得し、住宅建築を行うとの申請である。農地区分については、第 2 種農地であると考えられる。排水については、管理者の同意を得て、合併浄化槽から水路へ放流する計画である。雨水については、敷地内に浸透枘を設置する計画である。

整理番号 8 番については、住宅新築のための所有権移転で、1 筆、2 1 3 m<sup>2</sup>の申請である。譲受人は借家にて暮らしている。現在の住まいが手狭になってきたことから、住宅の建築を計画した。そこで、実家に近い申請地が適地と考え、売買にて取得し、住宅建築を行うとの申請である。農地区分

については、第2種農地であると考えられる。排水については、管理者の同意を得て、合併浄化槽から水路へ放流する計画である。雨水については、敷地内に浸透枡を設置する計画である。

整理番号9番については、駐車場敷地拡張のための所有権移転で、1筆、793㎡の申請である。譲受人は昭和47年9月に株式会社を設立し、貨物自動車運送事業を主な業務としている。業務拡大に伴い、車両を増やすため、新たに駐車場を必要としている。そこで、既存駐車場に隣接する申請地が適地と考え、既存敷地と合わせて駐車場（合計敷地面積2,776㎡）として使用したいとの申請である。農地区分については、第1種農地であると考えられるが、既存敷地の拡張であり、拡張される面積が既存敷地面積の2分の1を超えないため、不許可の例外に該当すると考えられる。雨水については、敷地内にて浸透トレンチを設置する計画である。

整理番号10番については、駐車場に使用のための賃借権設定で、2筆、3,242㎡の申請である。譲受人は昭和51年9月に株式会社を設立し、青果物の販売及び加工を主な業務としている。卸売市場内で駐車場として使用していた場所に、工場及び配送センターを建築するため、新たに駐車場を必要としている。そこで、卸売市場に近接する申請地を適地と考え、賃借にて借り受け、使用したいとの申請である。農地区分については、第2種農地であると考えられる。雨水については、敷地内に浸透トレンチを設置する計画である。

以上のことから、整理番号１番から１０番については、それぞれ立地基準と一般基準として許可できない場合が規定された農地法第５条第２項各号に該当しないため、総合意見として県へ許可相当であるとの意見を付すことによろしいか、お伺いする。」との説明を行なった。

議長は、委員に意見を求めた。

議長は、意見がなかったため、整理番号１番から１０番について農地転用に関する許可基準からみた意見については、農地法第５条第２項各号に該当しないため、総合意見として許可相当とすることで、採決に入る旨を告げ賛成の者の挙手を求めた。

議長は、全員の賛成が得られたため、議案第４号について総合意見として許可相当とすることに決定する。

### 1 3 閉 会

議長 渋谷 武 は議案の審議がすべて完了したため、第505回川越市農業委員会総会の閉会を宣言し、一同散会する。

### 1 4 署 名

この議事録が正当であることを証明するため、下記に署名捺印をする。

令和8年 1月28日

---

議 長            渋谷 武

---

委 員            時田 重雄

---

委 員            高橋 正利

---

委 員            皆川 善平

---